

秋田県立雄物川高等学校 中期ビジョン（5か年計画 令和3年度～） 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状（○）や課題（●）

（1）学校の状況

- キャリア教育プログラム「パスカルタイム」を通して、心の教育及び全人間的な教育を根本に据えた特色ある教育活動により、近隣の中学校を中心に、広く県内外からも生徒が集まっている。
- 少子化の進行に伴う生徒数が減少していく中、2学級小規模校の良さを活かした特色ある活動を展開している。
- 第七次秋田県高等学校総合整備計画における統合3校の一つとして、他の2校との緩やかな連携が今後必要になってくる。

（2）生徒の状況

- 生徒は素直で礼儀正しく、明朗である。授業態度も真面目で、進路実現に向けて真摯に取り組む姿勢も身に付いている。

（3）教育課程

- 現2学年から「進学コース」「ビジネスコース」「生活福祉コース」の2クラス3コース制を定めた。今後も新学習指導要領に基づき、特色ある教育課程の編成が求められる。

（4）部活動・課外活動

- 活動は非常に活発で、特に男子バレーボール部や陸上競技部、吹奏楽部は全国やこれに準ずる水準の活躍をしている。また、卓球部、美術部、総合文化部（JRC、パソコン、茶華道、文芸の各部門）も顕著な実績を有している。
- 家庭クラブは地域との連携をテーマに、これまで数次にわたって小学校や商店街等多彩なコラボ事業を中心とする「雄高SmiRing～地域の“わ”づくりプロジェクト～」で、地域に笑顔の輪を広げている。

（5）進路状況

- 進学と就職の割合は、進学、就職がおおむね半々程度である。早い段階からの進路指導が定着し、就職については希望者の大半が第一希望の企業に早期に内定を得ている。
- 進学に関しては、男子バレーボール部の生徒を中心に国公立及び難関私立大学への進学を果たしているほか、入学後努力を重ねて国公立・私立大学へ進学している。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

（1）将来予測

- ① 本校は横手市西部地区の高校教育の拠点校として使命を果たしてきた。少子化の影響で横手西部地区の中学校卒業者は今後5年間で約720名から630名に減少する。
- ② 生徒の興味・関心や適性等を踏まえながら、平成及び増田高校との統合を見据え、幅広い視野と豊かな教養を身に付け、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成するための特色ある教育を推進していくことが求められる。

（2）教育課程

- ① 「進学コース」では大学をはじめとする希望進路の実現に向けて、「ビジネスコース」「生活福祉コース」とあわせて、一層の充実を図る。
- ② 将来的には統合を見据えた教育課程の検討が3校間で必要になる。

（3）進路状況

- ① 就職と進学の割合は過去5年間ほぼ同率で推移している。今後も傾向に大きな変化は

ないと思われる。

- ② 生徒の具体的進路に対応した教育課程の見直しや、土曜学習の展開等対策の充実により、国公立をはじめとする大学等から就職に至るまで、第一希望の進路達成の増加に取り組む。

3 目指す学校像及び生徒像

(1) 目指す学校像

- ① 生徒の豊かな心を育み、社会的自立を支援する学校

(2) 目指す生徒像

- ① 正しい判断力と正義感のある生徒
- ② 思いやりと豊かな心をもつ生徒
- ③ 自信をもって主体的に行動できる生徒
- ④ 社会性やコミュニケーション能力の高い生徒
- ⑤ 向上心をもち社会的自立を目指す生徒

(3) 特色ある学校づくりの方向性

- ① 地域を支える人材づくり推進のため、多様な進路ニーズに応えることで、東由利地区もふくめた横手市西部を軸とした地域連携で存在感を示す。
- ② 平成13年度から改善を加えて継続中のキャリア教育プログラム「パスカルタイム」の取組により、生徒が自分のよさや可能性を認識できるよう自己肯定感を育み、豊かな人間性や創造性等、調和のとれた社会人としての資質・能力を養い、社会的自立を目指し、進路実現に結び付ける。
- ③ 生徒一人一人が、学びに向かう力を伸ばすため、ユニバーサルデザインの視点に基づくわかる授業を実践する。
- ④ 保護者や地域の要望に応え、進路指導や特別活動指導、生徒指導に重点を置いた教育活動を重視し、生徒の進路実現と社会的自立を力強く支援する。

(4) 具体的なアクション

- ① 地域連携
 - ・ 地域産業の基盤を支える人材育成の役割を担い、自治体と連携した活動や地域活性化に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ② 小中高連携
 - ・ 雄物川小学校との交流や横手明峰中学校との授業研究会、また公開授業をとおして横手地区の各中学校や東由利中学校等との連携を強化する。
- ③ 自治体との連携
 - ・ 横手市議会へのモニター参加等、横手市関係諸機関との連携・交流を進め、地域課題解決型協働学習を通じて、地域を支える人材としてのシチズンシップを醸成する。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

(1) 進路指導

- ① 国公立及び私立大学並びに国家、地方等の公務員希望者については、合格率100%、民間就職については第一志望事業所への全員合格
- ② 資格取得率の向上（全商簿記検定2級・全商電卓検定3級90%以上合格等）

(2) 生徒指導

- ① 生徒全員がさわやかな挨拶・整容を実現
- ② 問題行動・いじめゼロ

(3) 部活動・特別活動

- ① バレーボール部の全国大会優勝

- ② 陸上競技部のインターハイ出場及び上位入賞
- ③ 吹奏楽部の東日本大会出場及び上位入賞
- ④ 他の部活動の全県大会上位入賞
- ⑤ 全ての生徒が地域ボランティアないしは地域連携活動に関わり、地域の一員としての一体感を共有

5 具体的な取組

(1) 学力向上と主体的な探究を促す授業づくり

- ① 横手明峰中学校との連携や公開授業研究会の定期開催をとおして、円滑な中高接続や個に応じた学習指導のありかたに係る授業改善の推進
- ② あらゆる教育活動における I C T を活用した効果的な指導及び教材開発の推進

(2) 進路サポート体制の充実

- ① 全職員によるインターンシップ指導・就職及び進学受験面接指導
- ② 職場開拓・就職支援の充実
- ③ 個別の進路希望に対応した課外学習指導による進学実績の向上

(3) 挨拶、正しい整容、道徳心の定着

- ① 朝の挨拶運動の推進（通年）
- ② PTA活動の充実…生徒会委員会活動との協働による登校時一声運動の継続
- ③ 教育相談・特別支援体制の充実

(4) 部活動や地域連携による社会性の育成

- ① 部活動・生徒会、家庭クラブの地域貢献、交流活動の促進
- ② 全校や学年等の生徒単位での地域ボランティア活動の推進
- ③ 「パスカルタイム」を通じてのキャリア教育の推進と地域を支える人材意識の育成